



DataScientist Society

匿名加工情報利用に関する意識調査

2019年7月12日

一般社団法人 データサイエンティスト協会

理事 中林 紀彦

「匿名加工情報」とは？

「特定の個人を識別することができないよう個人情報を加工し、当該個人情報を復元できないようにした情報のこと」

①適切な加工

1. 特定の個人を識別することができる記述等の全部又は一部を削除すること
2. 個人識別符号の全部を削除すること

②安全管理措置

1. 匿名加工情報の加工方法等情報の漏えい防止
2. 匿名加工情報に関する苦情の処理・適正な取扱い措置と公表

③公表義務

1. 匿名加工情報を作成したとき
2. 匿名加工情報を第三者に提供するとき

④識別行為の禁止

作成元となった個人情報の本人を識別する目的で、他の情報と照合することや受領した匿名加工情報の加工方法等情報を取得することは禁止されています

匿名加工情報の例

個人情報



- 中林 紀彦
- 男性
- 45歳
- 神奈川県在住
- DS協会
- 理事

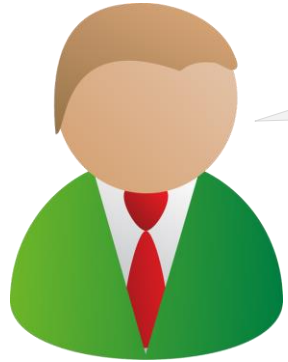
匿名化

匿名加工情報

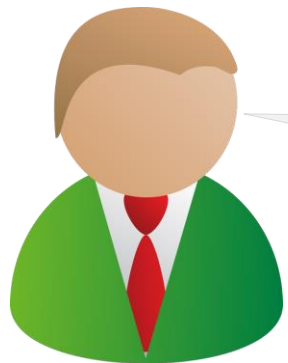


- Aさん
- 男性
- 45歳
- 神奈川県在住
- 団体社員
- 理事

会員企業の意見

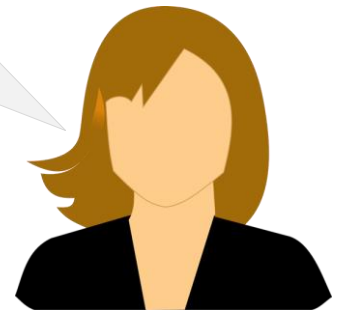


分析サービス提供企業A
「個人情報セキュリティポリシーの課題などがありハードルが高い。可能であれば匿名加工情報を使いたい。」

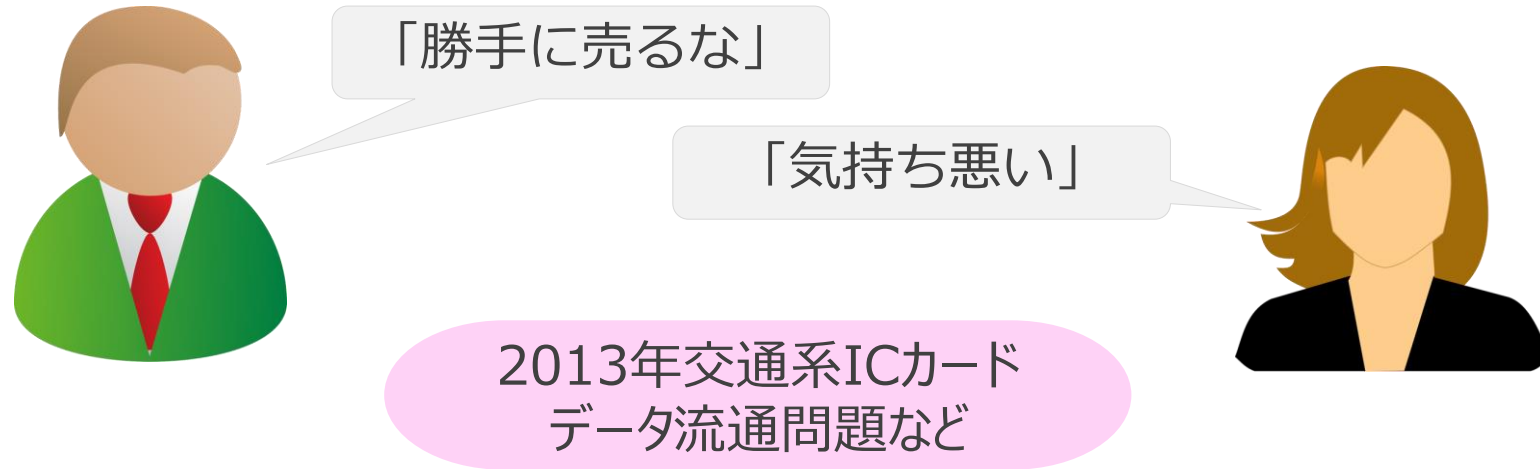


事業会社C
「少子化子育て支援や健康増進など、社会貢献目的の利用であれば許容されるのでは？」

事業会社B
「会社としては匿名加工情報も含めて積極的に活用していきたい。但し、個人としては利用目的や使用される情報が不明確だと気持ち悪い。」



風評被害のリスクを客観化できないか？

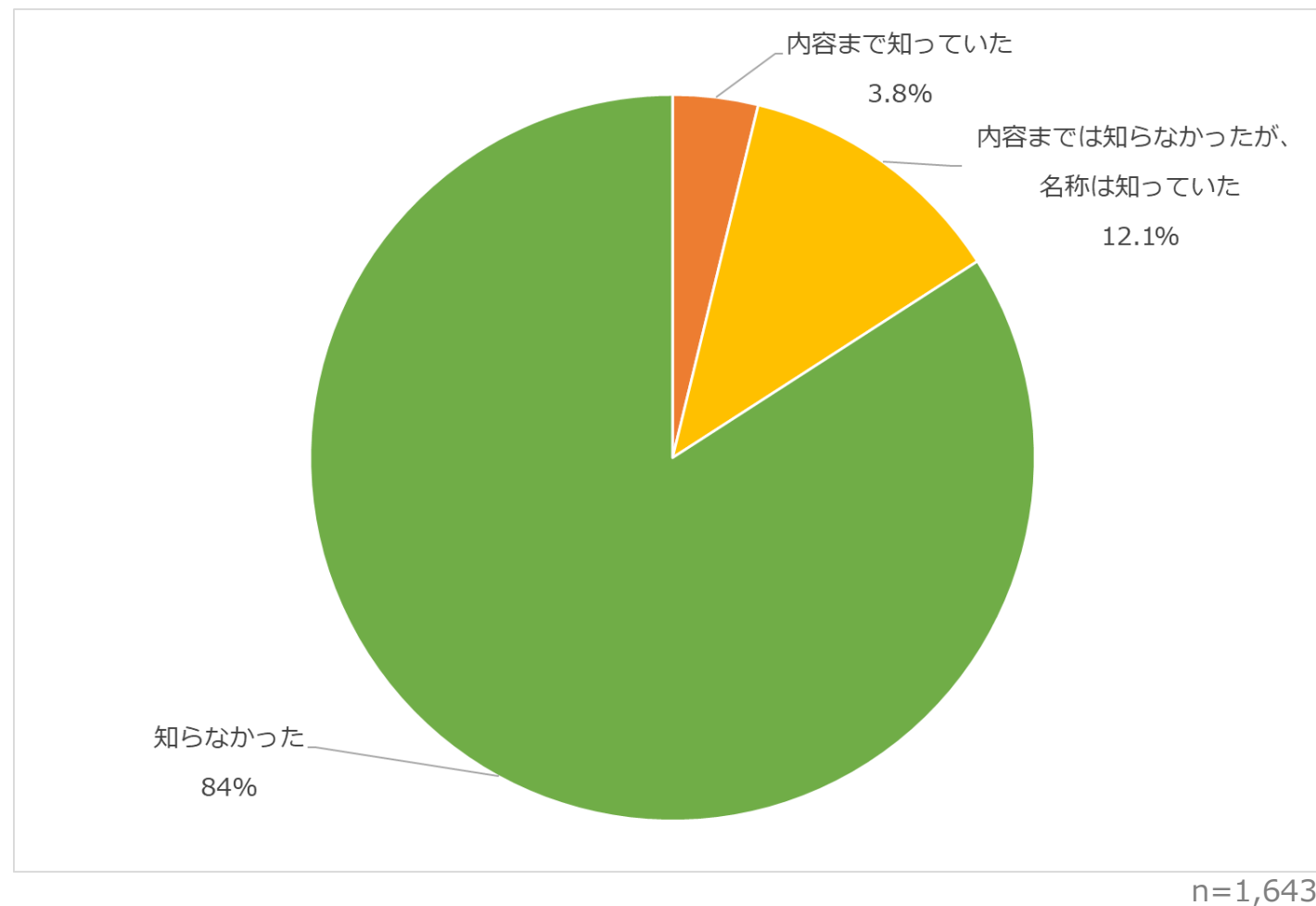


データの自由な流通・利活用がほとんど進んでいない

1. 「気持ち悪い」を客観的に知りたい
2. 公共の目的であれば許容されるのか？

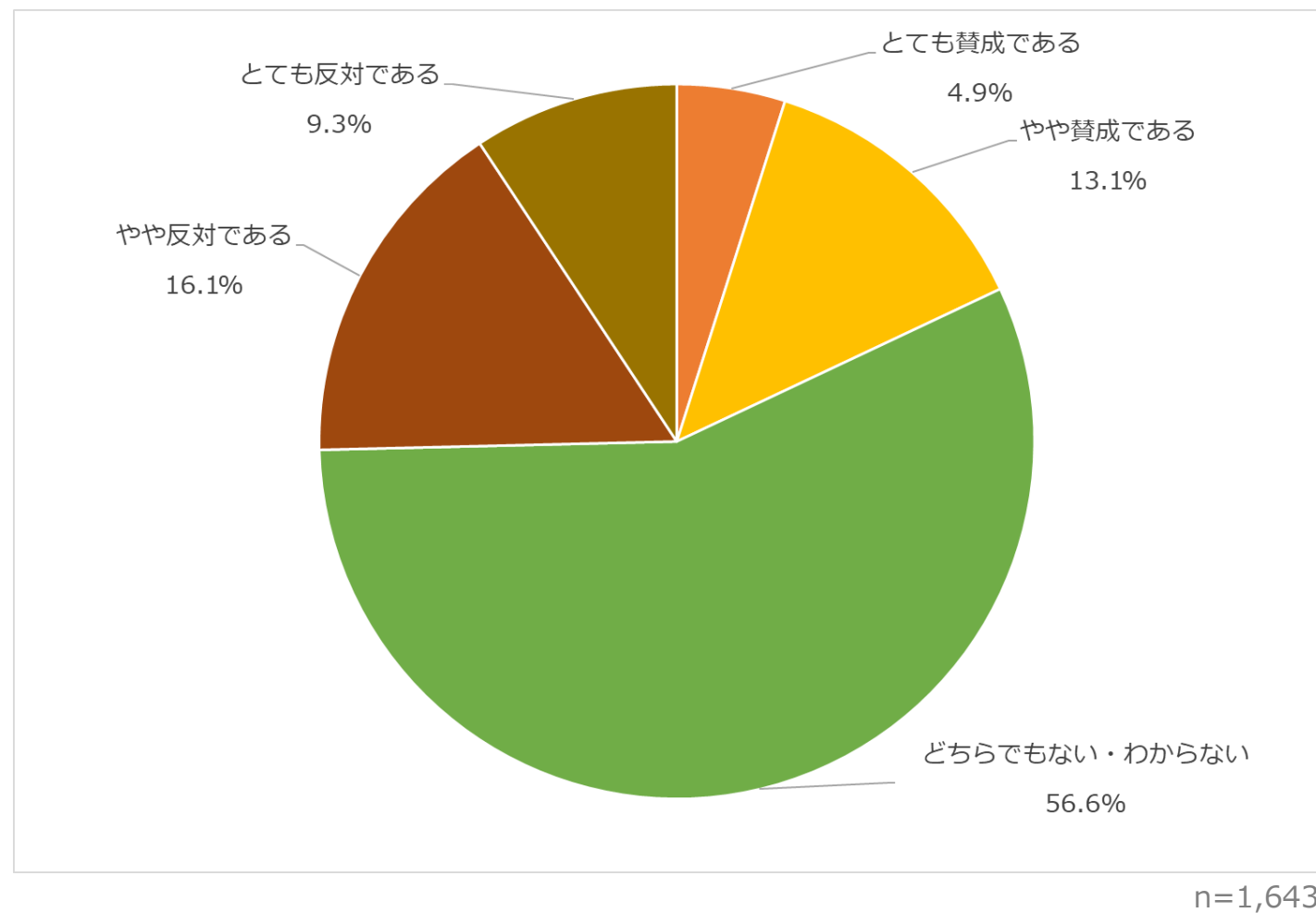
調査結果(1) 匿名加工情報の認知度

一般消費者における「匿名加工情報」の認知度は15.9%と低い



調査結果(2) 匿名加工情報利用の賛否

認知度が低く賛否を問われても判断できない人が多い



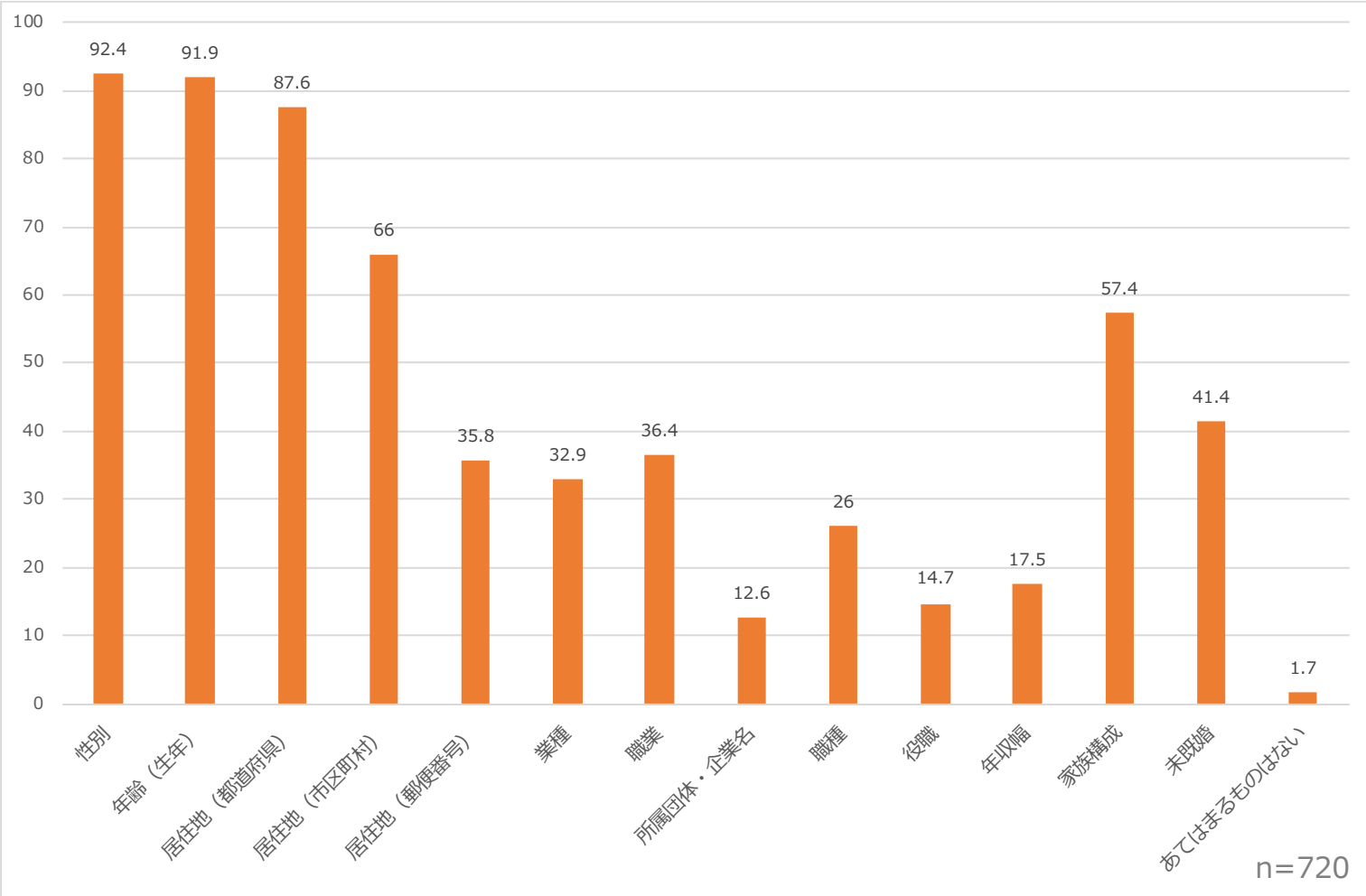
調査結果(3) 公共の研究を目的とした匿名加工情報利用の賛否

「自然災害に関する公的な研究」の許容度が43.8%と比較的高い



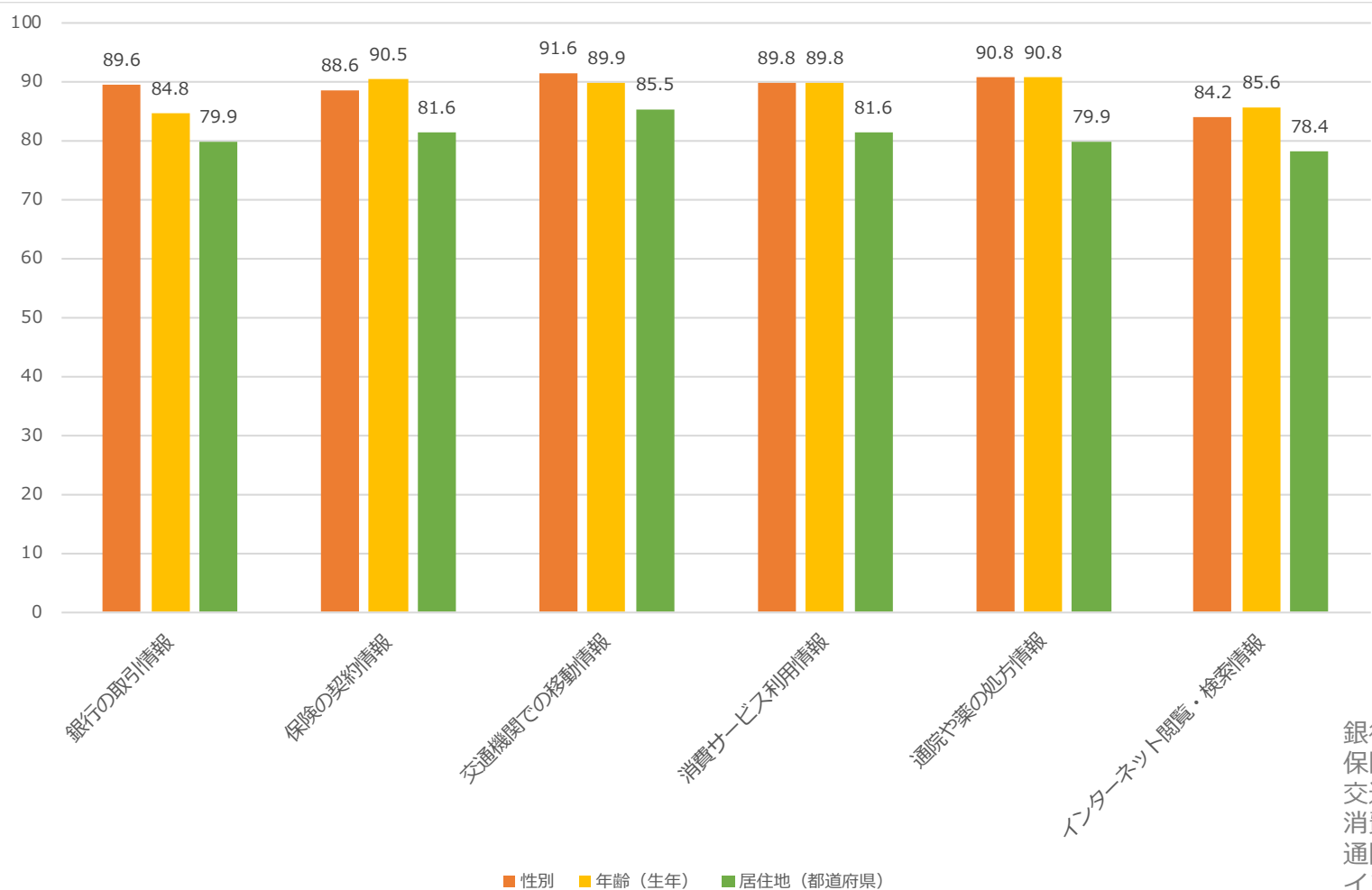
調査結果(4) 自然災害時の活用における許容範囲

「性別」、「年齢」、「居住地（都道府県）」の許容度が高い



調査結果(5) データ種別毎の許容度（性別・年齢・居住地）

データの種別によらず75%以上が許容すると回答



銀行の取引情報：n=164,
保険の契約情報：n=158,
交通機関での移動情報：n=345,
消費サービス利用情報：n=305,
通院や薬の処方情報：n=294,
インターネット閲覧・検索情報：n=139

自然災害に匿名加工情報を活用する



交通機関の移動情報

- 性別
- 年齢
- 居住地
- 時間帯別位置情報



- 災害時避難計画
- 72時間の対応
- 通行可能な道路
- 救援隊の派遣
- 援助物資の配給

1. 認知度向上の取り組みを加速

一般消費者の理解を得ることは重要であり、来年度に向けた個人情報保護法改正の動きに合わせた認知度向上と理解の促進に官民共同で取り組むべきと考えます。

2. 自然災害時の活用を促進

許容度が高い自然災害時の活用についてはすぐに取り組みを開始できる状況ですので、活用する場の提供や事例公開を行い企業からのデータ提供を後押ししてきます。

【補足】 認知度別の匿名加工情報利用の賛否

認知度が上がると賛同者が増える

